

東日本大震災による人口変動への影響(9)

～大阪圏は流出超が続くも、関東からの流入は増加が継続～

- 先日発表された総務省「住民基本台帳人口移動報告」の11月データをもとに、最近の人口変動の傾向をみてみたい。まず、三大都市圏における転入超過数（転入者数－転出者数）の動きは、東京圏、名古屋圏が転入超となった一方、大阪圏は4ヶ月連続の転出超となった（図表1）。今月は、東京圏が6ヶ月ぶりに転入超となったことが大きな注目点であるが、転出超が続いている大阪圏についても、対関東の動きといった震災以降のトレンドに変化がないかを確認する必要がある。

（東京圏：東京、神奈川、埼玉、千葉、名古屋圏：愛知、岐阜、三重、大阪圏：大阪、兵庫、京都、奈良）

- まず、大阪圏の動きをみると、今月は転入、転出ともに前年比でマイナスとなっている（図表2）。転入数はこれまで7ヶ月連続で前年を上回っていたため、トレンドの変化と受け取ることもできるが、これは主に中国など特定地域からの転入減が響いたものであり、継続的な動きではないとみられる。
- というのも、関東、東北からの転入数は8ヶ月連続で増加が続いているなど、大きなトレンドには変化がみられない。また、対関東での全体的な動きをみても、転出超の傾向に逆戻りしているとはいえ、震災前の月平均500～1000人減に比べれば小さな規模にとどまっている（図表3）。これらの点からも、震災後の人口変動の構造的な変化は続いていると考えられる。
- 一方、東京圏の動きについても、全体としては6ヶ月ぶりの転入超となったが、転出数が前年を上回る傾向に変化はない。この動きを地域別の累計でみると、特に目立つのは九州と関西に向かう動きである（図表4）。本社機能や生産拠点、システム拠点の分散化の動きにあわせ、原発事故の影響を避けようとする個人の動きも加わったものとみられる。
- 大阪圏については、今月の動きをもって2011年全体としても転入超となる見通しがほぼ固まったとみられる。年後半は転出超の動きが続いているだけに、2012年以降のトレンドは不透明であるが、特に関東をめぐる転出入の構造的な変化には今後も注目が集まろう。

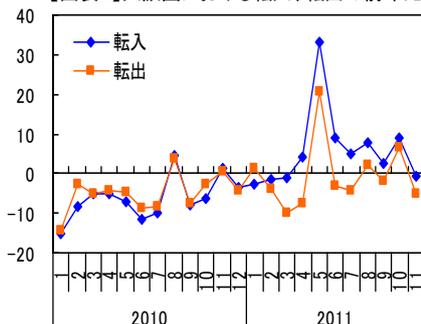
【図表1】三大都市圏における転入超過数の推移

	2011年											年累計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
東京圏	2103	1755	41885	19774	3722	-1207	-2817	-632	-535	-4	60	64104
大阪圏	-1181	-1142	3070	5339	397	425	764	-385	-825	-1100	-692	4670
名古屋圏	-522	-561	1307	1472	430	454	197	102	-87	274	211	3277

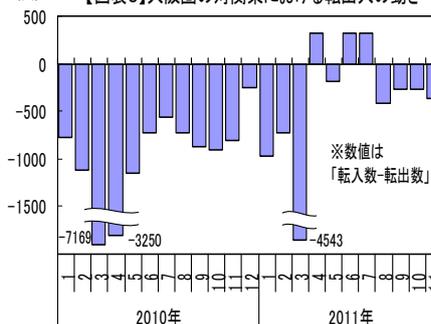
（出所）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※転入超過数・・・転入者数－転出者数

【図表2】大阪圏における転入、転出の前年比



【図表3】大阪圏の対関東における転出入の動き



【図表4】東京圏からの転出数の前年差

